

スマートコントラクト事業 実証事例

各産業におけるユースケースの創出

スマートコントラクトを活用した次世代保険商品について

近年ではデジタル技術を採用した保険商品の提供や予期せぬ災害の多発により投資収益が減少するなど、これまで保険業界で広く採用されてきた従来型のビジネスモデルを変革する取り組みが重要であるとされています。

- ・デジタル技術を活用した管理運用コストの削減
- ・より良い顧客体験の提供に向けた信頼できるデータの利活用
- ・情報の非対称性の改善による価格設定の最適化

スマートコントラクトを活用したデータ主導型のデジタル保険商品は、保険契約から決済プロセスまでの自動化を実現し、上記のようなメリットを市場にもたらします。これによって保険事業者はより低い保険料と決済の迅速化を顧客に提供することができ、今後はスマートコントラクトによる自律型（および半自律型）の保険商品の開発が進むことが考えられます。

。

Agenda

#1 各国のコンソーシアムとの連携に向けて

#2 国内での取り組みについて

#3 国内で行われている保険のデジタル化

#1 各国のコンソーシアムとの連携に向けて

海外スマコン保険コンソーシアム/企業について



- 自動車保険ブロックチェーンコンソーシアム（米国）
- スマコン保険アプリProof of Insurance、First Notice of Lossの開発



- ブロックチェーン再保険コンソーシアム（スイス）
- スマコンと再保険管理システムとの統合によって管理コストを削減



- デジタル保険の規格策定をにに取り組むコンソーシアム（中国）
- 109以上の中国保険会社が加盟し、情報共有システムを開発/提供



- ACORD : 国際保険規格策定機関 RiskStreamとB3iが加盟
- R3 Corda : RiskStreamとB3iがCordaを使用



- Chainlink : スマートコントラクトを活用した分散型保険の共同開発

国際社会において検討すべきテーマ

従来型契約	スマートコントラクト
 1~3日	 数分
 手作業による送金	 自動送金
 エスクローが必要	 エスクローが不要な可能性がある
 コストが高い	 コストが極めて低い
 当事者がその場にいなければならない (手書きの署名)	 当事者はバーチャルに存在すればよい (デジタル署名)
 弁護士が必要	 弁護士が不要な可能性がある

参考 : PwC Technology Forecast

- 2020年 : 自動決済/共有システムの利用による従来型契約とのコスト削減
- 2021年~ : プライバシーや契約内容秘匿の方法、紛争時の証拠力、消費者の契約内容の理解の問題

実証をする際に気をつけるべきこと

各国の契約業務/資産決済に関する法的要件の差異を客観的に整理する
差異がユースケース・ビジネス要件に影響するかを検討する

スマコンシステムに求められるもの

安全性

- セキュリティ企業「Quantstamp」「PeckShield」「CertiK」などによる監査の実施

分散型オラクル

- IoTやWeb APIといった外部システムとスマートコントラクトとの接続には分散型オラクルを利用する必要がある

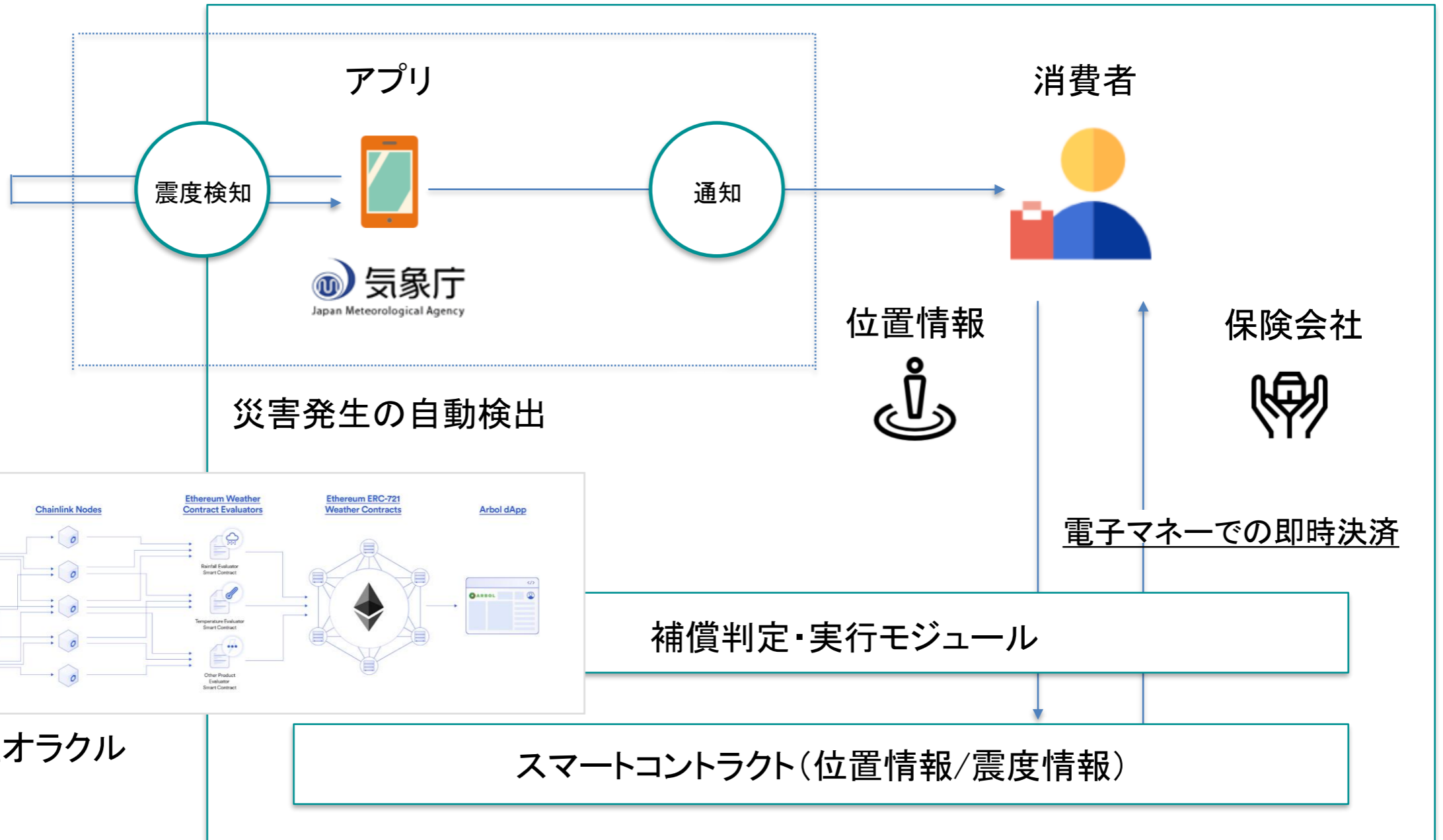
コンソーシアム
での運用

- 「デジタル化 ≠ 個別最適化」真のデジタル化に向けた企業間の連携システム構築が重要

#2 国内での取り組みについて

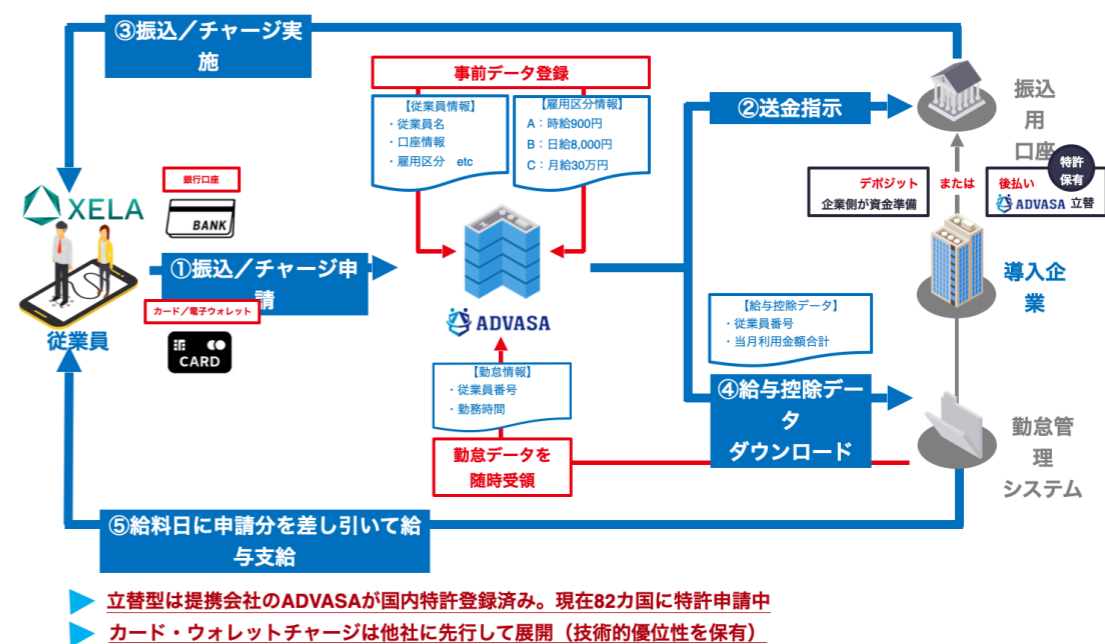
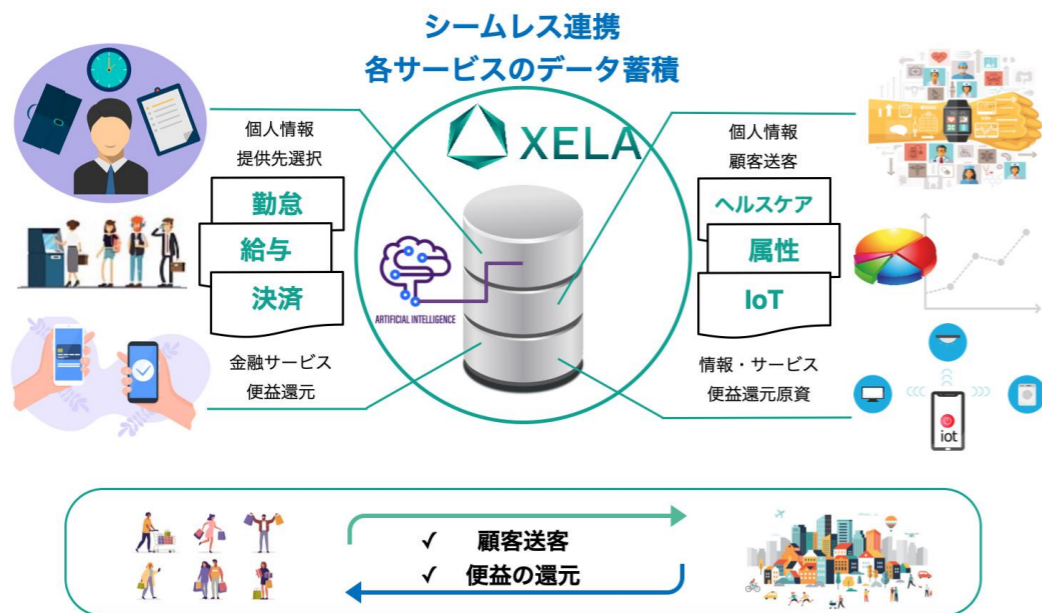
デジタルインデックス保険のイメージ

災害の発生

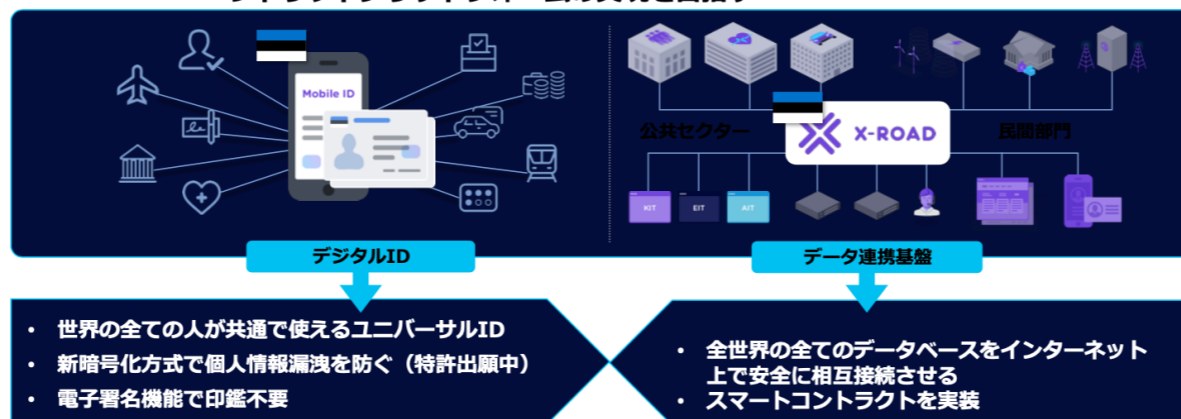


- あらかじめ定めた条件（指標）がトリガーとなる保険
- 災害時には損害調査を待たずに保険金を受け取れることから将来的には東南アジアでの天候インデックス保険の開発を予定

スマートコントラクト保険システム



電子政府国家エストニアをベンチマークとして、初期のスマートコ
ントラクトプラットフォームの実現を目指す

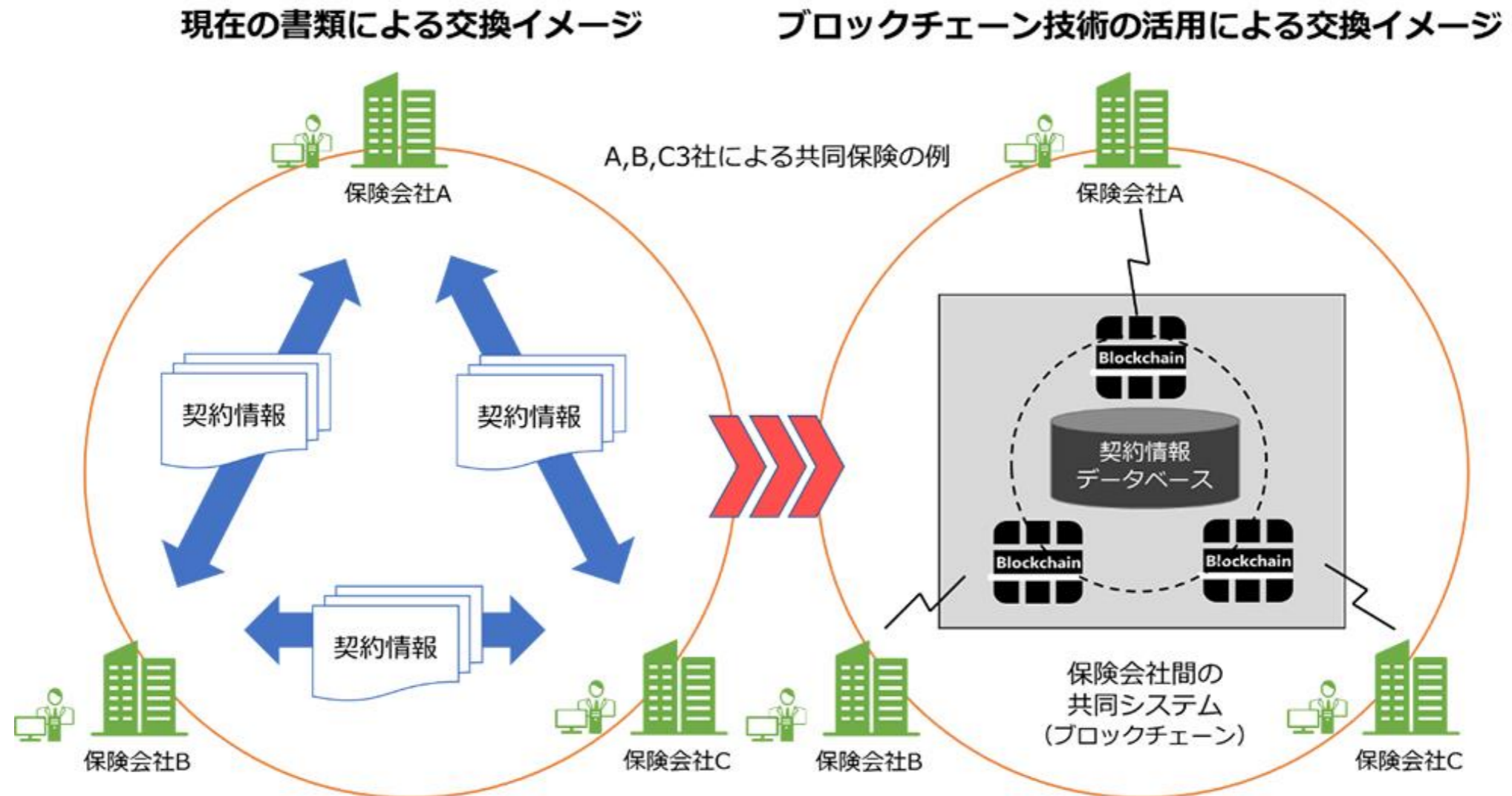


安心・安全な企業間での個人データの利活用を実現しスマートコントラクトを実装

- 異業種とのシームレスな連携を実現し、より良い顧客体験の提供を目指す

#3 国内で行われている保険のデジタル化

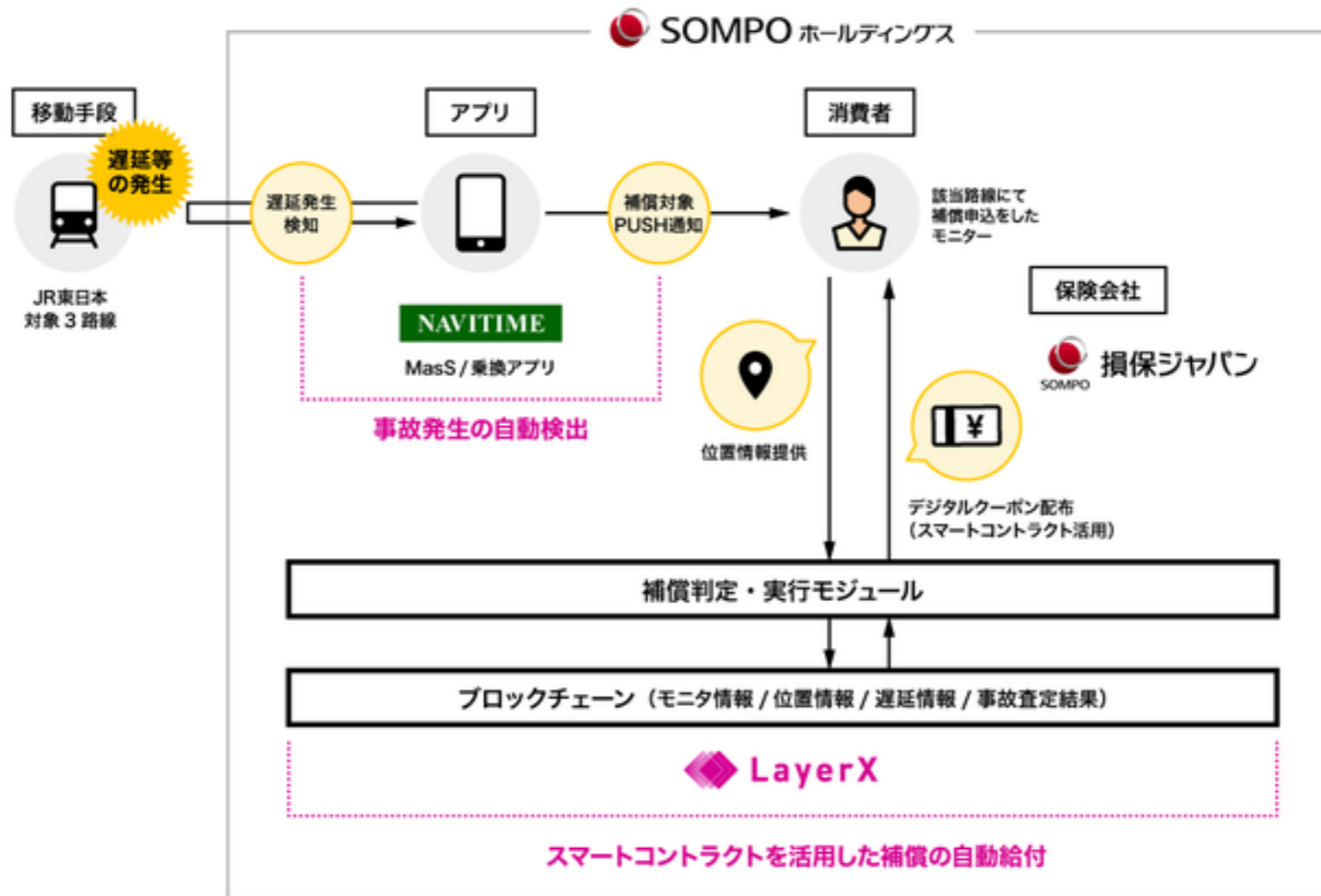
日本国内で進むデジタル保険の実証 ①



参照 : https://jpn.nec.com/press/202009/20200917_03.html

- 一般社団法人日本損害保険協会、NECによる実証
- 年間数十万件に及んでいる契約情報の交換をペーパーレス化、データ情報交換による各保険会社での契約計上業務の大幅な効率化

日本国内で進むデジタル保険の実証 ②



参照 : <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO62691160V10C20A8MM8000/>

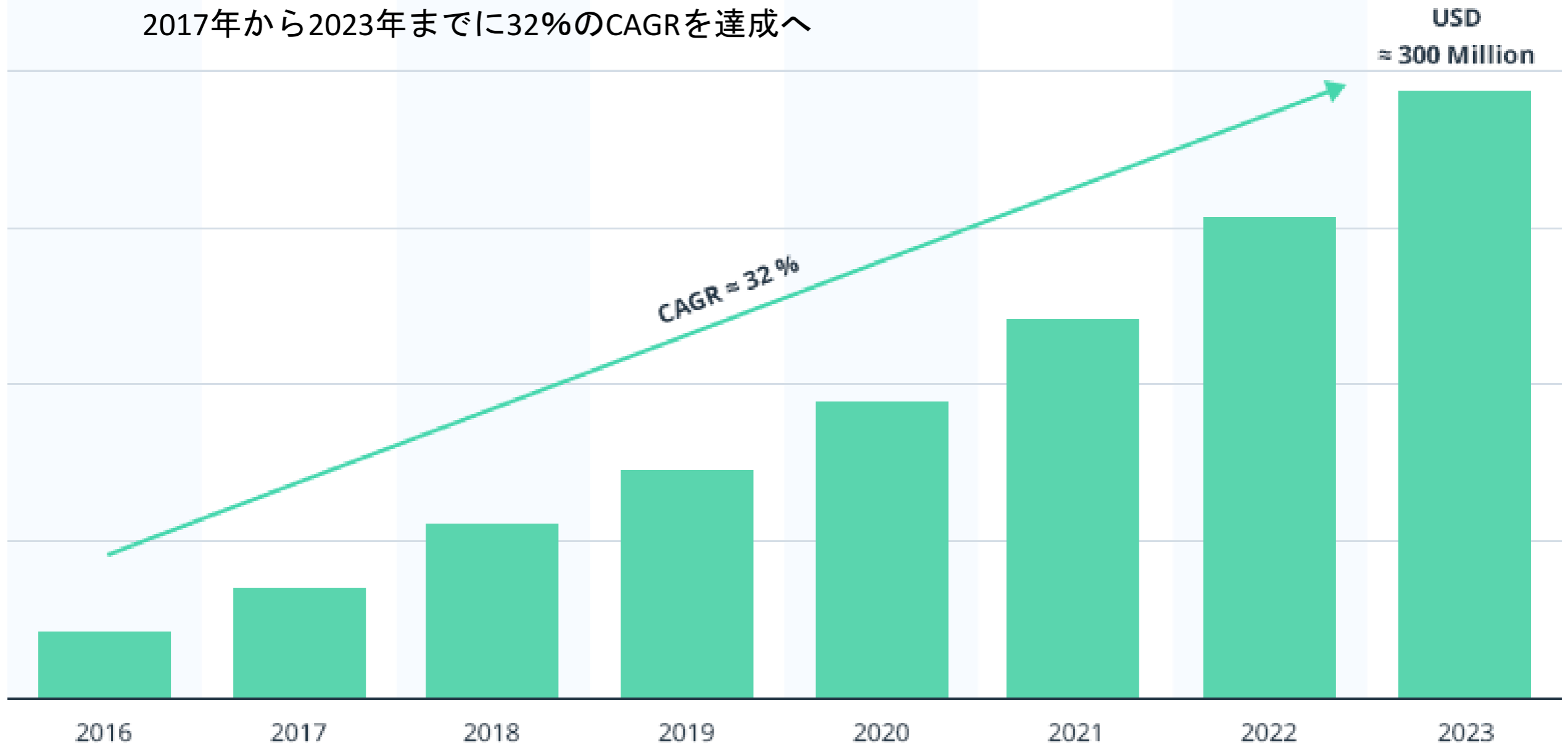
- 損害保険ジャパン、LayerXによる実証
- 電車などの事故の発生を自動で検知し、申告なしで即座に保険金を支払う実証実験

Appendix

市場成長性

・グローバルスマートコントラクト市場成長予測

2017年から2023年までに32%のCAGRを達成へ



市場全体の規模・・・**2023年末までに約3億ドル**